

## 令和4年6月定例会 一般質問 上田井良二議員

※代表質問・一般質問の会議録より抜粋し掲載しております。(各議員からの「質問」(問)に該当する部分を黄色マーキングしております。)

### 「災害時の避難や訓練について」

○上田井良二 今回の私の一般質問ですけれども、大きなテーマを2つ掲げさせていただいております。

1点目、災害時の避難や訓練につきまして、当然今までも幾度か質問をさせていただいております避難につきましてでございますけれども、災害発生時に想定しておる最大避難人数はどのくらいを想定しているのか、壇上での質問をさせていただいて終わります。

○危機管理監兼生活安全部長 まず、1回目のご質問でございますけれども、最大避難者数は地震から1週間後の想定でございますけれども2万2,244人となっております。

○上田井良二 1週間後の想定人数と聞いておりますけれども、この算定根拠は何かございますでしょうか。

○危機管理監兼生活安全部長 こちらの数字につきましては、奈良県が出しております第2次奈良県地震被害想定調査報告書、古うございまして平成16年10月のものがございますけれども、それがベースになっております。

○上田井良二 今言われたとおり平成16年ですから2004年、結構年数がたっております。これからは変わっておらないという捉え方でいいのでしょうか。

○危機管理監兼生活安全部長 はい、15年以上のデータになっております。国が出す想定は都道府県単位で、県のほうで各市町村単位という形となっておりますけれども15年前のもので、我々市町村からは県に対して新たな策定数をという要望はしておるところでございます。

○上田井良二 そうしましたら、この避難人数です、平日、昼夜、休日などということはどういった想定をしているのでしょうか。

○危機管理監兼生活安全部長 基本としての考え方は最も被害が大きくなるといった想定で、時間といたしましては冬の時期の早朝5時の想定で算定されていると聞いております。

○上田井良二 5時といいますと、大阪のほうへ勤務されている方、香芝市から出ていかれる方が結構多いと思うんですけれども、その方がまだ香芝市におられるというような想定だと思っんですけれども、そうしましたら最大避難人数でも各避難所別の人数は何か想定はされておるのでしょうか。

○危機管理監兼生活安全部長 各避難施設別の想定人数は算出しておりますけれども、各避難所ごとの想定最大避難者数は正直なところ想定できていないというのが正直な話です。

○上田井良二 そうしましたら、市で考えておられる、捉えておられる市民の皆様の避難場所、その認知度をどれぐらいと想定されておられますか。

○危機管理監兼生活安全部長 避難場所につきましては、さきの質問にも出てきましたけれども基本的に地域の小・中学校というところで我々といましては一定の認知はいただいていると考えておるところでございます。

ただ、近隣には案内の看板等も出しておりますし、総合防災マップであつたり広報等でお知らせ、特集記事などで認知のほうは図っておるつもりでございます。

○上田井良二 かなりの方が認知しておるといふ市の捉え方でありませうけれども、それらにつきましてさらなる啓発が必要であると思ひますけれども、それはどうですか。

○危機管理監兼生活安全部長 避難所情報にかかわらず防災意識の高揚については継続して実施していくところでございますし、この6月の広報についてもまた防災特集のほうを組ませていただいております。

○上田井良二 私の耳に届きますのは、ちょこちょここの地域は避難場所はどこなんだという市民の方からの声も届くこともございます。それは、例えば大雨が降ったとか台風が来たとか地震が来たとかというときに多いかと思ひます。

どれぐらいの市民の方々が市のほうで作ってもらっている防災マップなどハザードマップとかどういう形で関心を持って見ていただいているのかということがこれからの課題の一つではないかなと思ひますけれども、それらについて次の2番に行きたいと思ひます。

防災訓練につきましてですけれども、市が主催となつた防災訓練、近年の実績についてお聞かせいただけませんか。

○危機管理監兼生活安全部長 直近で申しますと、令和元年度であれば志都美小学校にて6自治会で企画された防災訓練に対し支援といった形では協力を行つています。市主催で申しますと、古くはなりますけれども令和元年、香芝西中学校において関屋自治会、高山台自治会を対象に訓練をやつたところがございます。

○上田井良二 今危機管理監が少し言いにくかつたようですが、なかなか市主催でやることは少ないというふうな捉え方だと思ひますけれども、公共施設への避難訓練についてもお聞きしたいんですけれども、これは部署が分かれますのでこれはまた別の機会でお聞きしたいと思ひますけれども、そしたら今後について市が主催となつた防災訓練の実施についてはどのように考えておられますか。

○危機管理監兼生活安全部長 先ほどの避難場所のこともございますから、中学校区を基礎として中学校のグラウンドを利用した避難訓練については年に1回程度については継続して行っていくべきだと思ひております。

○上田井良二 この防災、災害につきまして、昨日も今日も含めて幾つか質問もありまして指摘も理事者の方々は受けられておられました。それらを聞いておると、一つの転換期じゃないかなというふうにも思ひます。

自主防災につきまして各自治会で組んでおられないのは2つというふうには、結構自主

防災組織をつくっていただいております。それらを考えますと次の段階へ行くべきんじゃないかなというふうにも思うんです。あれをしてください。これをしてくださいと言うだけではなかなか前へ進んでいかない、市民の皆様の安全に対してどれだけ力を入れているか、香芝市は考えてくれているなという一つの市民に対しての高揚力をアップするためにも、ここでお願い事項になるんですけども各避難所ごと、先ほど危機管理監もお話しされたように中学校も小学校もそうですけれども避難所はここであるという避難場所を中心として毎年1回、防災訓練を市が主催となってやっていただくことが大事んじゃないかなと、そういう時期に来ているんじゃないかなと思うんですけども、市長、どういうお考えでしょうか。そのあたりを聞かせてもらえませんか。

○市長 先ほど危機管理監からもお答えさせていただいたように、市としてはコロナ以前というのは大体市主催で自治会と合同という形で年1回ぐらい中学校、小学校でやっていたかなというふうに思います。

私自身も議員時代、香芝東中学校でやられていたものに自主防災として参加させていただきました。そのときにドクターヘリ、防災ヘリであったり、あと煙の中の体験であったり、給水体験であったり、段ボールベッド、マンホールトイレと様々な体験をしたことを覚えております。

今、上田井議員からご指摘があるように中学校単位ぐらいである程度大きなものを年1回ぐらいでやっていく、これは検討していきたいと思えます。

○上田井良二 私も前職の経験上、大阪の各行政単位で毎年やっておりました。例えば、中学校の避難場所、そこへ実際に市民の皆様が避難してくると、そこでライフラインの会社等も含めまして赤十字、いろんな方、警察、消防団も含めまして一日を通して訓練をやらされました。それらをする事によって、自主防災組織につきましても、各市民の皆様につきましても自治会に入っておらない住民の方もおられます、それらの方々も含めまして自分はずまず災害が起きたらここに避難するんだという認識づけ、それとこれからの災害に対してこういうときはこうしたほうがいいんだという経験を積んでいただく場所を今度市が主体となって設ける、こういう段階に来ているんじゃないかなというふうにも思います。

また、ある意味今よくキャンプのテレビ番組をよく見かけます、夏場だけじゃなしに冬場のキャンプもテレビでよく見かけます。本当に災害が起こりますと、例えば台風、また大雨等、それは時間の準備段階がありますけれども、この間も気象庁も発表しておりました京都の南部のほうで地震があると、頻発すると、今後警戒が必要だという話もございました。

大きい地震が来たときに一気に生活のパターンが崩れてしまう、不便が生じてくる、いろんな体制を取っておっても電話も使えない、充電ができない、電気も使えない、昼は明るいけれども夜になったら真っ暗であると、そういう中で日頃の生活、この便利な生活が一気になくなってしまう、それらを少しでも体験してもらおうことで、それをまた一つの楽しみと言ったら語弊があるかも分からないですけども**キャンプのものを通して**市が今どれだけ備品を例えば準備している、例えばお話にもございました段ボールベッド、市が抱えている

テントをどういうふうに使ったらいいんだ、こういうものを用意しておるんだということ  
をしっかりとPRすることによって、**自助・共助、このあたりの意識をつけていくという段階**  
**に来ていると思います**ので、しっかりとまたそのあたり、危機管理監が先頭となって理事  
者全員一致になってやることによって理事者の方々、職員の方々も災害が起きたときには  
自分はこうするんだという協議の場にもなるんじゃないかなと思いますので、**そのあたり、**  
**危機管理監、どうでしょうか、ご意見をください。**

○危機管理監兼生活安全部長 ありがとうございます。

実際のキャンプ関係については火起こしから全てやっていく、調理も外でやるといった  
ことで申しますと有効であるとは考えております。ただ、キャンプイベント等の防災訓練に  
なりますといろいろ安全管理の点等でハードルも高くなってくるとは考えますので、既存  
のイベント等、例えば団体さんでボーイスカウトさんの活動にジョイントさせてもらうと  
かそういった可能性については検討していきたいと思います。

○上田井良二 今回を契機の一つ動いてもらいたいというのは、しっかり最初からは無理  
だと思ふんです。年1回はやっていくという形で徐々に規模を広げていくということが、こ  
れから市が先頭となって市民の皆様の安全を守っていく、そういう意識に立っていただい  
ての訓練、また催物をやっていただきたいなと思いますので、今後ともよろしく願いた  
いと思います。

### 「带状疱疹について」

○上田井良二 次は、带状疱疹についてなんですけれども、私はこれも市民の皆様からご意  
見を頂戴したわけなんですけれども、意識をしたところ新聞記事なんかにも載ってありまし  
たし、2回目は見ていないんですけれどもこの間テレビのCMでも带状疱疹が流行してきて  
いるということをこの一般質問を決めた後に聞きましてどきっとしたんですけど、それだ  
け出てきている部分があるのかなというふうにも思ふんですけれども、この带状疱疹につ  
いてまだまだ知っておられない方がたくさんおられると思います。それについて、今の現在  
の状況についてまず聞かせていただきたいと思います。

**带状疱疹の患者の増加が懸念されていると色々な報道もありますけれども、この発症**  
**する原因は何だと捉えておられますか。**

○健康部長 带状疱疹は、多くの方が子供のときに感染いたします水ぼうそうのウイルス  
が原因となり発症するものでございます。水ぼうそうが治った後もウイルスは体内の神経  
節に潜伏していて、過労やストレスなどで免疫が低下いたしますとウイルスが再び活性化  
して発症する病気でございます。

○上田井良二 一回引いたら体内にずっと残って潜伏していると、非常に聞いたら怖い、ス  
トレスがあると当然免疫力が低下すると。

今回、真実はどうか分かりませんがコロナワクチンを接種することによって起き

ているんだというお話も聞いたりもします。この帯状疱疹はどのような症状が出るか把握しておられますか。

○健康部長 症状につきましては、体の左右どちらかの神経に沿ってぴりぴりとした知覚過敏のような痛みが皮膚に生じまして、数日後に水ぶくれを伴います赤い発疹が帯状に現れます。多くは上半身に現れ、顔面、特に目の周りに現れることがございます。ウイルスが神経を大きく傷つけてしまいますと、皮膚の症状が治った後も痛みが長期間続き、帯状疱疹後神経痛という後遺症が残る場合もございます。

○上田井良二 今後遺症が残る場合があるというお話でしたけれども、どれぐらいの割合で後遺症が残るのか、またどれぐらい期間が続くのか分かるのでしょうか。

○健康部長 50歳以上で帯状疱疹になった場合、約2割の方が帯状疱疹後神経痛になると言われております。

また、帯状疱疹後神経痛は一、二か月で症状が落ち着く人が多いと報告されていますが、3分の1の方は3か月以上続くとされ、5分の1の方は1年以上続くという統計が出ております。

○上田井良二 今聞いてびっくりしたのが結構後遺症がきついやつもあるんですね。今言っただけのように目の周りとか顔にできるというような話もあります。

こういう症状がひどい場合、入院が必要な場合もあるのでしょうか。

○健康部長 症状が重い場合でございましたり免疫力が低下している場合には、入院治療が必要となる場合があるとのことでございます。

○上田井良二 そうしましたら、根本的なこの帯状疱疹、どのような治療をするのでしょうか。

○健康部長 帯状疱疹の治療につきましては、原因であるウイルスの増殖を抑える抗ウイルス薬を使いました内服薬、塗り薬を使った治療が行われます。

また、痛みに対しましては鎮痛薬が処方されますが、強い痛みが続く場合については神経ブロックと呼ばれる治療が行われることもございます。

重症化させないためには、できるだけ早く治療を開始することが大切であると言われております。

○上田井良二 そうしましたら、この帯状疱疹というのは人から人へ感染することがあるのでしょうか。

○健康部長 帯状疱疹の水ぶくれの中にはウイルスが存在しております。既に水ぼうそうになったことのある方については帯状疱疹としてうつることはございませんが、水ぼうそうになったことのない方には水ぼうそうとしてうつることがございます。

○上田井良二 そうしましたら、この帯状疱疹を発症しやすい年代なんかは現在のところあるのでしょうか。

○健康部長 発症には年齢が大きく関わっているとのことでございます。高齢になりますと発症しやすくなるとのことでございます。加齢による免疫力の低下が原因と考えられて

おりますが、50歳代から発症率が高くなりまして、80歳までに約3人に1の方が带状疱疹を発症すると言われております。

○上田井良二 そうしましたら、本市の带状疱疹の年間発生者数はどれぐらいか、分かる範囲で結構ですので教えてもらえませんか。

○健康部長 罹患者の実数については把握できておりませんが、带状疱疹大規模疫学調査データに基づきまして算出しました推計値によりますと、奈良県の50歳以上の罹患者数については年間7,570人、本市の50歳以上の罹患者数については年間360人と推計されております。

○上田井良二 今、50歳以上と80歳以上というお話がありましたけれども、最近若者の発症が増えていると言われていまして、これは原因が何かあるのでしょうか。

○健康部長 従前は水ぼうそうにかかった子供と接することで大人も免疫を活性化できるブースター効果を得てきましたが、平成26年より水痘ワクチンが乳幼児の定期接種となったことによりまして子供の水ぼうそうが減少しております。その結果でございますがブースター効果を得る機会が減りまして、子育て世帯でも带状疱疹を発症する方が増加していると考えられております。

○上田井良二 ということは、子供さんの水ぼうそうを抑えるために定期接種をしたことによって、その家族で大人の方がうつることがなくなった、減ったということが原因であると、反面教師みたいなものだと思うんですけれども、そしたらその平成26年から開始されている子供さんのワクチンの効果について教えていただけますか。

○健康部長 子供の水痘ワクチンにつきましては、平成26年から定期接種として1歳から3歳未満の幼児に2回接種されております。ワクチンの効果といたしましては、1回のワクチン接種で水ぼうそうの発症77%減少し、2回の接種で94%減少するとの調査結果が出ております。

○上田井良二 発症が減るといことは、そこのご家族の方がうつるのが減ってくるというようなことだと思うんですけれども、そうしましたら定期接種開始前の方で水ぼうそうにかかっていない人というのはその水痘ワクチン接種はできないのでしょうか。

○健康部長 水痘ワクチンにつきましては、生後12か月以上で水ぼうそうの既往歴のない方が接種できます。

しかしながら、定期接種対象である1歳から3歳未満の幼児以外の方がワクチンを接種する場合は実費での任意接種となります。

○上田井良二 そうしましたら、次の予防方法についてお聞きいたしますけれども、この带状疱疹を発症しないための予防方法は具体的にどんなものがあるのでしょうか。

○健康部長 带状疱疹をワクチン接種により完全に防ぐものではございませんが、50歳以上の方については带状疱疹ワクチンを接種することができます。一定の発症を抑える効果が期待されているものでございます。

また、ワクチン接種以外につきましては、带状疱疹は免疫力の低下が原因で発症すると言

われておりますので、食事のバランスに気をつけて睡眠をきちんと取るなど日頃から体調管理を心がけることが大切であると言われております。

○上田井良二 そうでしたら、そのワクチンの効果について教えていただけますか。

○健康部長 現在、日本では2種類の予防接種ワクチンが認められております。1つは、2016年に承認されました1回接種型の生ワクチンで、予防効果は約50%で効果の持続期間は5年程度と言われております。もう一つにつきましては、2020年に承認されました不活化ワクチンで、2回接種が必要ですが予防効果は90%以上で効果の持続期間は9年以上あると言われております。

○上田井良二 先ほど予防方法の中で50歳以上の方についてはワクチン接種をすることができるというお話でしたが、今若年層がはやってきているんですけれども若年層の発症者が増加しているといいますが、その若年層の方々へのワクチン接種はできるんでしょうか、できないんでしょうか。

○健康部長 50歳以上の方には認められておりますけれども、若年層への接種については現時点では認められておりません。

○上田井良二 そうでしたら、50歳以下の方はワクチン接種できないということなんですけれども、その予防接種ができない場合はどういうふうに予防すればいいんでしょうか、再度聞かせてください。

○健康部長 繰り返しの答弁となりますが、ワクチン接種の認められていない年代層の方につきましては、食事のバランスに気をつけていただき睡眠をきちんと取ることなど日頃から体調管理を心がけ、免疫力の低下を防ぐことにより予防していただくこととなります。

○上田井良二 今、食事のバランス、また睡眠をきちんと取るというのは、この忙しい世の中でそれを聞いて、あ、それをやったらできるんだというふうに今聞かれて思われた方が何人ぐらい、自分は無理やなというふうに思う方が多いかと思うんですけれども、若年層にはやっているとすればまた根本的な50歳以下でも受けられるような形を取っていかなくかんかなというふうに思うんですけれども、そしたら50歳以上で受けられる予防接種、この費用はどれぐらいかかるんでしょうか、教えていただけますか。

○健康部長 带状疱疹ワクチンにつきましては、任意接種となっておりますので費用は全額自己負担となります。生ワクチンについては、1回の接種で8,000円程度、不活化ワクチンは2回接種方式となりますが、1回につき2万円程度の費用負担が必要となることとでございます。

○上田井良二 かなり高額な費用がかかるようなんですけれども、この接種費用を補助をしている自治体は奈良県内にはあるんでしょうか。

○健康部長 2022年4月時点での製薬会社の調査となりますが、全国で28自治体が带状疱疹予防ワクチン接種に係る自己負担額の一部助成を実施されております。この調査によりますと、奈良県内におきましては実施されている自治体はございません。

また、県内11市に問合せをいたしましたところ、現時点でワクチンの公費助成を投入す

る予定はないとの回答でございました。

○**上田井良二** 全国で28自治体が一部助成を導入されておると、助成額についてはどの程度でしょうか。

○**健康部長** 助成額につきましては各自治体で違いはございますが、生ワクチンにつきましては4,000円前後、不活化ワクチンにつきましては1万円を2回補助するとして自己負担額の半分程度を助成している自治体が多くございます。

○**上田井良二** 昨日、公明新聞に出ておったんですが、愛知県の蒲郡市の記事を見かけまして带状疱疹のワクチン助成を先月1日から始めたということで、蒲郡市の人数を調べたんですけれども大体香芝市と人数が同じぐらいなんです、たしか人口が7万8,000人程度だったと思います。一般経費の今年度予算は300万円を超える予算だったのではほぼ同等ぐらいかなというふうにも思っております。

助成も先ほど聞きましたら80歳以上が3人に1人発症するけれども90%効くワクチンは2回打たなくちゃいけない、4万円かかると、80といたらもう年金生活されている方には非常に厳しい状態だと思うんですけれども、実際に本市でその接種費用、奈良県ではないというんですけれども実際にやってほしいんですけれども、この検討はできませんか。

○**健康部長** 費用額について一旦試算させていただきました。令和4年4月末現在の本市の50歳以上の人口が3万4,183人でございます。そのうち25%の方が不活化ワクチンの予防接種を2回接種されたと仮定いたしまして、この自己負担額の半分程度2万円を費用助成するものとして試算いたしますと約1億7,000万円の予算が必要となっております。

また、带状疱疹ワクチンにつきましては予防接種法に基づかない任意接種となりますので地方交付税の対象とはされておられません。そのため、財源は市の全て持ち出しとなりますので、現時点においては接種費用の助成を実施することは難しいのではないかなというふうには考えております。

しかしながら、带状疱疹ワクチンにつきましては海外でも接種が推奨されていますことから、国の動向を注視するとともに他の自治体の動向も含めまして調査研究してまいりたいと考えております。

○**上田井良二** 1億7,000万円ほどかかるというお話がありましたけれども、これからを考えると高齢化が進んでいくと思います香芝市についても平成26年から始まった子供さんへのワクチン接種、これをなくさない限り、原因がそれだけじゃないですけれども減ってくることはないと思うんです。今やらないとどんどん増えてくる、これからも带状疱疹の方が増えてくるんじゃないかなと、脅かすわけじゃないですけれどもというふうに予測はできると思います。

ですから、今の間にしっかりと判断をさせていただいて費用助成をお願いしたいんですけれども、そのあたりは市長、どうでしょうか。

○**市長** 私の信頼する同年代の方もストレスから発症、ストレスからの免疫の低下により発症しました。そのときに初めてこの病気に対して詳しく知るきっかけとなりました。ワク



チン接種自体はワクチンによって予防可能な疾患、これは重症化しない有効な手段であるということをそのときに知りました。

しかしながら、これは任意接種になりますのでワクチンについては乳幼児期から接種するワクチンを含めて全て自己負担で接種していただいておりますと、また任意接種ワクチンの補助につきましては先ほど部長から答弁があったように多額の予算が必要となるということで十分検討が必要であるというふうに考えます。

ただ、今上田議員から教えていただいた先行都市、その都市をしっかりと研究し、また国の動向、さらには奈良県内のほかの自治体の動きも注視し調査研究してまいりたいと思います。

**○上田井良二** 今回、初めて带状疱疹についてお話をさせていただきましたけれども、80歳を超えると3人に1人、発疹するだけでなく後遺症が残ると、長年香芝のためにといますか社会のために働いてきてきた高齢者の方々が後遺症まで残ると、すごい痛みも残るといような後遺症がある中で、1億数千万円かかるか分からないですけれどもしっかりと助成についてやっていただきたいなど、奈良県で初めてになってもいいんじゃないですか、私はそういうふうに思います。

これから減ることはないと思うので、増えてくるばかりなんで、しっかりと高齢者の方、また若者の人にも増えていると思いますので、本当に目の周りとか顔にできたら今マスクはしておりますけれども覆いかぶせなくちゃいけない、仕事に非常に支障来すということが出てくるかも分からないのでしっかりとそのあたり考えていただいてぜひとも助成をしていただきたいなと思いますので、よろしく願い申し上げまして、私の一般質問を終わります。